山口県生協連 ニュース vol.243

発行：山口県生活協同組合連合会
〒753－0083　山口市後河原 210
TEL：083-923-5614 FAX：083-928-5416
E-mail：yken.ccu@smile.ocn.ne.jp
http://yamaguchi-kenren-coop.jp/

2024 年 1 月 10 発行

謹賀新年

平和とより良いくらし、地域づくりのために

山口県生活協同組合連合会　会長理事　岡崎　悟

新年あけましておめでとうございます。

昨年も皆様に様々なご協力、ご支援を賜りましたことに心より感謝申し上げます。

ロシアのウクライナ侵攻は 1 年が経過しても終わりが見えず犠牲者は増え続けています。また、ロシアとウクライナからのエネルギー関連物資や小麦等は引き続き輸入が困難で、円安も重なって日本国内での生活物資価格は大変な高騰をしました。多くの企業ではここ数十年間で最高の賃上げを実施しましたが、それでも物価高騰には追い付かず、暮らしは大変厳しいものとなっています。

さらに 10 月にはパレスチナとイスラエルの紛争が激化し、11 月にはイスラエル軍のガザ市街への侵攻によって病院や学校までもが攻撃され、子どもを含む多くの一般市民が犠牲になっています。ウクライナ紛争以上に悲惨なニュース報道を見るにつけ、何とか早く終わらせることは出来ないものかと誰もが心痛されていることと思います。

このような国際紛争と異常な価格高騰など不安で混沌とした世の中ですが、生協の理念である「平和とより良いくらし、地域づくり」のために、人と人のつながりによる信頼と互助の関係を大切にして取り組んでいく所存です。

本年も山口県生協連へのご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げるとともに、皆様のご健勝を心より祈念申し上げます。

山口県生協連 2023 年度第 1 回役職員研修会報告

2023 年 9 月 14 日（木）、生活協同組合コープやまぐち第 3 会議室にて 2023 年度第 1 回役職員研修会を開催しました。

県生協連は研修会を毎年２回開催していますが、１回目の研修では協同組合としての事業や活動をすすめる上で基本となる考えを改めて学ぶ機会としています。今回は（一社）日本協同組合連携機構　常務理事の伊藤治郎様に講演をお願いしました。

講演テーマ　『協同組合らしさ』について考える

～協同組合のアイデンティティに関する ICA 声明～

協同組合のアイデンティティが研修のテーマということで県内の他の協同組合にもご案内し、県生協連加盟以外の協同組合からの参加もありました。

参加人数（Web 参加を含む）：66 人　　時間：13：00～14：30

初めに県生協連の岡崎会長が、この研修の後、それぞれの組織で「協同組合らしさ」とは何か、皆さんで考えていただくきっかけになって欲しいとあいさつしました。

続いて伊藤常務が講演され、初めの自己紹介では、日本協同組合連携機構(JCA)についても簡単に紹介されました。

アイデンティティとは自分自身をどのように認識し，他者からどのように認識されているかであるため、定期的に見つめなおし、明確なアイデンティティを持つことが事業の成功のためにも大切だそうです。

ロッチデール協同組合の成り立ちや日本での生協運動の父・賀川豊彦氏が築いてきた協同組合の歴史を経て、１８９５年に設立された ICA（国際協同組合同盟）は協同組合原則を定義。１９９５年に協同組合のアイデンティティに関する ICA 声明を発表。今、約３０年前の ICA 声明 のアイデンティを議論する必要性を言われています。

なぜ、議論する必要があるのかというと、協同組合の運営が規模の拡大や効率性をもとめられて株式会社的な要素を帯びてきたり、組合員の顧客化や子会社といったことに、協同組合の存在意義の再認識と現代社会における協同組合のアイデンティティ確立が必要とされていること、また ICA ソウル大会で指摘された、環境・社会が変化するなかで、暮らしが変化し、ひとびとの「ニーズと願い」も変化するためです。ICA 声明の一つ一つの条文と議論していくべき点を説明していただきました。

論点となる事項例として、地球環境、平和・非暴力、多様性・包摂性、職員（従業員）の位置づけ、組合員の経済的参加、についてアイデンティティに追加するかどうかの解説をされました。

最後に協同組合間連携の勧めとして山口県や他県の先進事例紹介（農業・福祉・フードバンクなど）をしていただき、JCA のキャッチフレーズ「ゆるやか」～一致できる点でやろう～「あいのり」～いいなという取り組みに乗ってみる～「やってみる」～トライ＆エラーで小さいことからやってみる～についても紹介されました。

【参加者の感想】

・協同組合のアイデンティティについて考えることが多々ありますので参考になりました。
・一人ひとりが考えて、考えを持ち帰り、そういう場を大切につくっていきたいと思います。
・アイデンティティへの追加項目、いずれも協同組合に寄せられた時代の要請だと思います。
・「環境」、「平和」、「多様性」を協同組合のアイデンティティに追加することに、アンケートでは「必ず必要だ」「まあまあ必要」という意見が多数でした。

生協連　理事会　視察研修報告

コロナ禍で長年開催できなかった理事会視察研修、今年は福井県に伺いました。

福井県民生協で行われている複合的な事業展開（店舗＋宅配事業＋福祉事業＋託児など）を視察し、生涯にわたって組合員のくらしにお役立ちする事業経営の実践を学ぶことを目的に、山口県生協連理事会研修が開催されました。会員生協５生協からの参加者６名を含む総勢９名が、１１月２日（木）～３日（金）の２日間で参加しました。

１日目は、新幹線と特急、敦賀からはレンタカーを乗り継ぎ、ハーツわかさに到着しました。ハーツわかさが所属する小浜市を含む若狭エリアの人口は、46,712 人、24,501 世帯、組合員数 15,635 人（組織率 63.8%）、高齢化率 33%超の小商圏の地域です。

ハーツわかさには、福井県民生協の店舗と宅配センター、居宅介護支援事業所、地域密着型デイサービスが同じ建物の中で事業を運営しており、加えて NPO 法人わくわくくらぶが運営する保育事業もテナントに同居していました。

店舗では農産品の鮮度アップを目的に当日入荷品は当日売り切りにこだわり、翌日に残った商品は値引き販売していました。

センターではコーピングハウスの様子を見学し、仕事終わりに商品を受け取りに来られる方が多いと感じました。地域密着型デイサービスでは、午前中に昼食の食材を１階の店舗で利用者と一緒に買い物し、利用者ができることをしてもらいながら昼食を作っていました。

保育事業では、里帰り出産の２～３ヶ月間でも預かり保育を行うとのことでした。

福井市に移動後、福井県民生協の松宮理事長をはじめとする役員との懇親会で懇親を深めました。

２日目は、福井県民生協が４９％出資するふくいレイボーファーム株式会社を視察しました。ふくいレイボーファームの設立の経緯は、①政府の「成長産業化路線」と②福井県農業の衰退への危機感から、農業法人を設立し、自らの農場で水田、露地野菜、ぶどう等の栽培を行っています。

今回は日程の関係で農場の視察はできませんでしたが、宅配でお届けする食材セットや宅配弁当、店舗の総菜で使用するカット野菜を作る食品加工センターを見学しました。加工センターでは、産地で一定割合発生する規格外野菜を刺身のつま等を製造していました。

協力農家さんも規格外の野菜を買い取ってもらえることが喜ばれているとのことでした。工場は HACCP の衛生管理体制を構築し、見学者の私たちも入室の際にエアシャワーを受けました。工場内の従業員の中には１０名の外国人労働者がおられ、戦力になっているとのことでした。

時間に追われる２日間の視察研修でしたが、福井県民生協が組合員の生涯に渡るお役立ちのために、保育事業、購買事業（店舗、宅配）、福祉（介護）事業を運営され、各事業に相乗効果が生まれていることを時間しました。会員生協の参加者にとっては業態の異なる事業もありましたが、参加者同志の交流もでき、貴重な視察研修になったようでした。

消費生活協同組合等に対する厚生労働大臣表彰を受賞。

消費生活協同組合法制定 75 周年を記念し、健全な事業運営を行い、他の模範と認められる消費生活協同組合（連合会）及び組合役員に対し、厚生労働大臣が表彰を行うもの（5 年ごとの表彰）。です。今回は全国で、31 組合（組合表彰）、29 名（個人表彰）が表彰されました。

山口県から下関市立大学生活協同組合と医療生協健文会前理事長の野田浩夫氏が表彰されました。

★下関市立大学生活協同組合

【主な功績】キャンパス内の福利厚生を担う生協として、学生の学びと成長を支援する事業を実施。学生生活を支えるだけでなく、田植え体験等を地域と連携して開催することで、学生と地域との交流促進に寄与。

★ 野田浩夫氏

【主な功績】33 年 7 か月の長きにわたり、生協役職員として医療・福祉に貢献。地域住民や組合員の暮らしを支える有償助け合い事業「ここって」を発足させるなど医療生活協同組合健文会の発展に寄与。

＊＊

令和 5 年 10 月 23 日（月曜日）14 時から表彰式が開催されました。おめでとうございます！